

大浦総合研究所

大浦勇三 著

ビジネス梁塵秘抄（二）

学・献・遊

遊ぶは仕事、仕事は遊ぶ
遊ぶは仕事、仕事は遊ぶ
仕事は遊び、遊びは仕事
仕事は遊び、遊びは仕事
遊びは遊ぶ、遊ぶは遊び
遊びは遊ぶ、遊ぶは遊び

目次

はじめに

第一部

〔遊〕

遊びをせんとや生れけん

第二部

〔献〕

仕事をせんとや生れけん

第三部

〔学〕

学びをせんとや生れけん

はじめに

平安時代末期、「梁塵秘抄（りょうじんひしょう）」という歌謡集が編まりました。平安時代末期は、日本の歴史の中でも先が見えない激動の時代でした。編者は後白河法皇で一八〇年前後のものといわれます。書名の「梁塵」は、その歌で梁（はり）の塵（ちり）も動いたという故事からとられました。

多くの歌が七五調四句や八五調四句、さらには五七五七七の調子など、さまざまなバリエーションからなります。

通常、「梁塵秘抄」といえば、

**遊びをせんとや生れけむ、戯れせんとや生れけん、
遊ぶ子供の声きけば、我が身さえこそ動がるれ。**
（岩波文庫版）

が有名です。

現在、日本をとり巻く環境は、平安時代末期に負けず劣らずの大変革期にあり、その規模はグローバルな広がりを持っています。グローバル規模の動きになればなるほど、あらためて日本の文化風土、日本人の特性が一段と問われることになります。

この二〇年、日本はなかなか前に進めず、ある意味で後退を余儀なくされましたが、「後ろ向きで前に進む」ことには限界があります。前へ進もうとする以上、きちんと正面を向く必要があります。平安時代の日本人は、乱世の中での人生を「遊び」「戯れ」と肚をくくり、難題や障害と真正面から向き合い、それを乗り越え生き抜いてきました。

二二世紀の我々も、この文化風土と特性をもう一度再認識し、覚悟を決めて思いを深め、生活と仕事に希望と喜びを見出していきたいものです。

本書は、仕事を通じて少しずつ抽斗（ひきだし）にため込んできたものを、真つ平御免の何でもある形式で纏めたものです。しかし、文学的素養などの力不足はいかんともし難く、お手本の「梁塵秘抄」とは比べることが憚れるレベルの内容になってしまいました。ただ、「遊（遊び）」「献（仕事）」「学（学び）」に対する思いの深さだけは忘れず、無我夢中でまとめたことだけはお汲みとりいただき、なにとぞご寛恕いただければ幸いです。

東京・芝にて

大浦 勇三

遊

遊びをせんとや生れけん

*三〇ページ、九〇文より
一ページ、三文を抜粋

○長谷川等伯 無駄を徹底して削ぎ落とし 濃淡で、森羅万象をとらえる
未来はすぐに過去になる だからこそ、過去を描いて、未来を洞察する
いつの世も課題は尽きない 大切なことを思い続ける、それに飽きない
ただ座っているだけでは 腕があがるはずはなく課題解決もありえない

○創造的階級が新たに生まれている、とは米国のリチャード・フロリダ教授
仕事と人生、創造的な姿勢で立ち向う 創造性を刺激する場所に人は集う
組織の都合でなく、組織の方が働く人の暮らしたい都市や地域に立地する
仕事一辺倒では追いつけない遊びの空間 自己組織化のパワーを生み出す

○いつ死んでもいいでなく平気で生きていける これが悟り、と正岡子規
欧米人は、挑戦に喜び勇む 日本人は、安全確認の後、初めて挑戦する
安心・安全が、与えられることはありえない 自力で獲得するしかない
わからないことは恥を怖れず教えを乞う 同じことは繰り返し聞かない

献

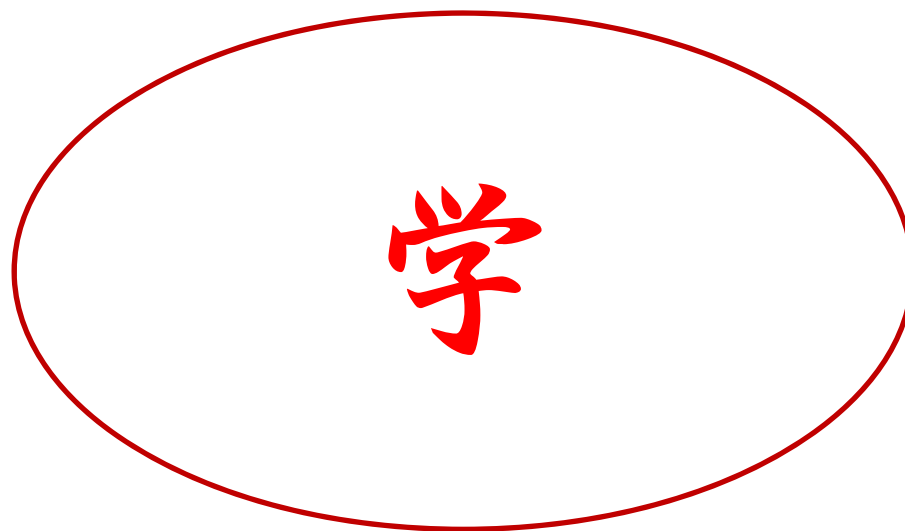
仕事をせんとや生れけん

*三〇ページ、九〇文より
一ページ、三文を抜粋

○日本 七〇年代の産業化時代の技術経営から、知の時代の技術経営にシフト
一〇〇年予測からは、さまざまな教訓が得られる かなりの精度で的中した
要因としては 技術の萌芽期から分析を重ね、その先をしっかり読んだ成果
今後一〇〇年の萌芽技術 更に途上・成長技術の道を歩むものは何かを探る

○米国のイノベーション調査結果が示唆 ナレッジマネジメントの有効活用がトップ
発明や発見のインセンティブ、革新的考え方の方の訓練、独自規格・ルールのデザイン
更には、イノベーションマネジメントの厳守、持続的な科学的・論理的アプローチ
大事なのは人材の着実な成長 資源がないのではなく、資源を活かす技術がないだけ

○トヨタ問題 産業界全体に大きな教訓 製造業のみならず、サービス業にまで及ぶ
日頃は意識することのない、組織上の暗黙のルールが存在 不文律を改めて見直す
統合フィージビリティスタディの必要性 組織知としてのリベラルアーツの重要性
未知・未踏の領域へ突入 想像力・抽象力、世界で勝負するには突破すべき大問題



学びをせんとや生れけん

*三〇ページ、九〇文より
一ページ、三文を抜粋

○魚ではなく、魚の釣り方 お腹は膨れるが、食べるとそれまで講義、教科書の単なる解説ではなく 脱線する裏表の話に妙味 どんな時に失敗、成功 教科書にない発想、裏ワザ、けもの道 多様な切り口の蓄積こそ人間の厚み 方法論や型を乗り越える

○ナレッジマネジメントの活用 知識資本主義から学習資本主義への流れ 過去を蘇生させ、時間を見える化する プロセスと習慣化を大事にする 知識習得のラーニングから、知識を解きほぐし編み直すアンラーニング コンテンツよりもプロセス、知的好奇心と寛恕の精神を習慣化していく

○仕事と学習の境界が消滅 仲間の才能を見抜く力量、それを自己評価に反映する 組織活性化を通じたイノベーションへ 人間は好調時でなく、不調時に成長する インフォーマルネットワークと組織文化から 多様な人材の自律的な貢献を導く 外からわかりやすい、フォーマルネットワークだけでは 組織評価を誤る可能性

大浦勇三（おおうら ゆうぞう）

oura@office.email.ne.jp

大浦総合研究所 代表

<http://www.mm.jp.or.jp/oura/>

早稲田大学卒業、筑波大学大学院修了。

米国大手コンサルティング会社 アーサー・D・リトル 主席コンサルタントを経て現職。主担当領域は、経営改革、経営戦略&情報通信技術（ICT）戦略策定、業務改革／組織改革、研究開発／商品開発マネジメント、ナレッジマネジメント&イノベーションマネジメント、人材マネジメント、コーチング&メンタリング、プロジェクト&プログラムマネジメント、ベンチャービジネス支援等のコンサルティング。

主な著書には、

- ・「イノベーション・ノート」（PHP研究所）
 - ・「IT技術者キャリアアップのためのメンタリング技法」（ソフトリサーチセンター）
 - ・「よいコンサルタントの見分け方、かかり方」（清語会）
 - ・「ナレッジマネジメントが見る見るわかる」（サンマーク出版）
 - ・「図解ナレッジ・カンパニー」（東洋経済新報社） ほか
- その他新聞、雑誌、ウェブサイトへの寄稿多数

「ビジネス梁塵秘抄（二）」（**抜粋**）

著者 大浦勇三

二〇二二年三月 初版 第二刷発行

大浦総合研究所

〒一〇八・〇〇一四 東京都港区芝四丁目一六・一・二〇〇五

◎大浦総合研究所

大浦総合研究所の許可なく複製・改変などを行うことはできません。